刀剣の聖地

石上神宮で観る 日本刀の世界

日本刀のルーツ・大和の流派と名匠たち

会期
令和8年
7/15(水)▶7/20(月祝)
9時30分～16時（最終日のみ15時まで）

会場
石上神宮 参集殿

観覧料 一般 1500円
高校生以下 700円

EVENT

展覧会紹介ライブ配信

7月15日(水) 17:00～

トークショー／関連イベント

7月18日(土)・19日(日)・20日(月)(祝) 11:00～

「刀剣の聖地」石上神宮で観る古代の鉄剣文化

石上神宮の御祭神は初代神武天皇をたすけた神剣です。また、八岐大蛇を退治した剣も祀られています。国家成立の時代、ヤマト王権の精神的拠り所となった石上神宮には、百済からヤマトの王に贈られた七支刀（国宝）が伝わっています。

刀剣の聖地で観る日本刀文化 ー大和国の流派と刀工

平安時代、鉄剣文化は日本刀に昇華しますが、その一大生産地であった大和の国。大和の刀工集団は質実剛健の美を誕生させ、各地の刀工にも影響を与えました。

一千年の歴史を受け継ぐ大和の名匠たち（現代刀）

世界に誇る日本刀文化。その匠の技と日本のこころを現代に継承する大和の名匠たち。第一人者の河内國平氏と月山貞利氏をはじめ、名匠たちの現代刀を展示します。

主催：石上神宮で観る日本刀の世界実行委員会 ／ 共催：天理市教育委員会 ／ 後援：天理市、天理市観光協会 ／ 協力：石上神宮、春日大社、鹿嶋大社、日本刀剣保存会関西支部、明倫産業株式会社、株式会社サンアップハウス、天理大学附属天理参考館 ／ 運営協力：ステージエム株式会社、一般社団法人まほら天理（mahora.tenri@gmail.com）

刀剣の聖地・石上神宮

石上神宮は日本最古の神社の一つで、古事記では伊勢神宮と石上神宮だけが神宮と誌されています。創建は、第十代崇神天皇の御代、それまで宮中に祀られていた初代神武天皇をたすけた神剣・師霊(フツノミタマ)、天孫降臨の際に天から授けられた天璽十種瑞宝(アマツシルシトクサノミヅノタカラ)、八岐大蛇を退治した天十握剣(アメノトツカノツルギ)を布留の高庭(石上神宮神域)に祀られたことに始まります。それ以来、古代国家を守る精神的拠り所として、また、軍事を司る武の拠点となりました。

そうした石上神宮の役割から、四世紀後半、百済からヤマトの王に贈られた、両国の安寧を祈念した珍しい剣、国宝・七支刀は、石上神宮に一六五〇年の時を経て現代に伝わっています。

日本刀のルーツ(母国)・大和国の刀鍛治文化

千手院派(せんじゅいんは)　太刀　銘 長光　鎌倉時代末期(1315年頃)

大和五派のなかで最も古く興ったのが千手院派であり、全ての大和鍛治の源流。無銘の作がほとんどであるが、本作は在銘で鎌倉末期の太刀姿の典型作。

手掻派(てがいは)　太刀　包利　鎌倉時代末期　四国山内家伝来

手掻派は、東大寺転害門前に栄えた刀工集団。鎌倉時代末期の包永が流祖とされる。千手院鍛治から分かれ、独立した刀工集団を形成。「包」の字を銘に用いる刀工が多い。

當麻派(たいまは)　短刀　當麻　室町時代　冠落造り

當麻派は、大和奈良當麻寺に属した刀工集団。大和ものとしては、沸の強い、覇気のある刀を鍛えて、正宗、貞宗などの相州鍛治の作風に近い特徴がある。

尻懸派(しっかけは)　銘 長光　南北朝前期

尻懸派は、則長が事実上の祖とされる。手向山八幡宮境内の尻懸に工房があったとされ、大和神社(天理市)近くに移転したとの説もある。この太刀は南北朝前期、貞和(1345～1350)頃で鎌倉期の形態を残している。

保昌派(ほうしょうは)　小脇指　銘 藤原貞清　鎌倉時代後期

保昌派は、鎌倉時代後期、大和国高市群(橿原市曽我町)に鍛治場があり、銘に貞宗、貞吉、貞清、貞興等、「貞」の字を付ける上手を輩出した。

大和志津(やまとしづ)　剣　鎌倉時代末期～南北朝初期

大和志津とは、兼氏が濃州多芸郡志津に居住する以前、すなわち包氏と銘していた大和在住時代の作を指すとされるが、その後も大和に包氏の名跡を襲った者が存在し、広義には之を含めて大和志津と呼称している。

金房派(きんぼうは)　脇指　南都住藤原朝臣金房隼人丞正真　室町時代末期

金房派は室町末期に隆盛をみた一派である。作風には伝統的な大和伝系を示す特徴はみられず、互の目調の大乱れや、匂い口の締まった直刃に足・葉が入ったものが多い。

現代の名工

河内國平氏

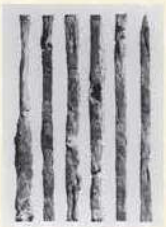
第14代刀匠河内守國助次男として出生。大学卒業後、人間国宝宮入昭平氏に入門、相州伝を学ぶ。59年、人間国宝隅谷正峯氏に師事、備前伝を学ぶ。昭和63年、無鑑査認定。石上神宮の国宝七支刀を復元。平成22年、厚生労働大臣卓越技能表彰(現代の名工)、平成26年、「正宗賞」受賞。著書に「刀匠が教える・日本刀の魅力」(里文出版、和・英文)、「復元七支刀－古代東アジアの鉄・象嵌・文字－」(共著、雄山閣)、写真集「河内國平という生き方」(里文出版)。奈良県指定無形文化財保持者。

月山貞利氏

二代貞一(人間国宝)の三男として出生。高松宮賞、文化庁長官賞、寒山賞など数々の賞を受賞、36歳で新作名刀展無鑑査に認定。鎌倉期から続く月山鍛治は幕末期に奥州から大阪へ移住する。幕末以降の大阪月山五代目として家伝の綾杉鍛えや月山彫、各伝に通ずる技術を継承する中で、独創的な鍛刀や刀剣彫刻にも積極的に挑戦し力作を多く残している。奈良県指定無形文化財保持者、全日本刀匠会顧問。

ほか 月山貞伸氏　河内隆平氏　金田國真氏　布都正崇氏の現代刀

古代刀



卑弥呼の刀!?　国宝・中平銘金象嵌鉄刀(レプリカ)

天理市東大寺山古墳出土　天理大学附属天理参考館蔵

中平は中国後漢の年号であり、同鉄刀は2世紀に中国からもたらされたと思われる。棟に金象嵌の文字が刻まれ、金象嵌鉄刀では最も古い太刀。年代的に、邪馬台国女王の卑弥呼に贈られたとも推測できる。展示品は出土直後に作られたレプリカで、実物は東京国立博物館に所蔵される。

復元七支刀

七支刀(国宝)は四世紀後半、百済の王から倭国(ヤマト王権)に友好の証として贈られた剣で、ヤマト王権時代から武の拠点となった石上神宮に伝わり現存する。中心の剣から左右に枝分かれした「ななつさやのたち」といわれる類のない形状の剣。

展覧会では、平成十七年に現代の名工、河内國平氏製作の復元七支刀と、実物を再現したレプリカを展示。

平安時代後期の名刀　重要美術品　太刀

無銘　(古伯耆・伝安綱)

伝承によれば日本刀が成立した初期の太刀として評価され、安綱の作といわれる。安綱は伯耆の国の名工で天下五剣と数えられる国宝・童子切安綱は有名である。平安時代後期にかけて活躍した刀工の祖とされ、三条小鍛治宗近、備前友成とともに最古の三名匠といわれる。

小烏丸造り　太刀　南都生駒住　源貞弘造之

喜多貞広氏　昭和46年

小烏丸は伝説の刀鍛治「天国」作と伝えられ、平家重代の宝刀。桓武天皇の時代、伊勢神宮からの使いである大鴉の羽から出たという伝承があり「小烏丸」と名付けられたとされる。明治維新後、対馬の宗氏が明治天皇に献上し御物となっている。

展示の小烏丸造りは、奈良県の刀匠喜多貞弘氏によって昭和46年に鍛えられ、廣瀬大社に奉納されたもの。

【アクセス】

近鉄天理駅およびJR天理駅より徒歩30分、タクシーで約10分

【石上神宮臨時送迎バスのご案内】

天理駅より9時30分から45分ごとに出発、
石上神宮16時30分発が最終 ※有料
会期中臨時駐車場あり(無料)

展覧会場

石上神宮

〒632-0014　天理市布留町384
https://www.isonokami.jp/

展覧会Instagram　展覧会X　石上神宮公式webサイト